

旧伊手小学校活用による小さな拠点づくりについて

令和6年6月20日 全員協議会資料 協働まちづくり部地域づくり推進課

1 概要

奥州市未来羅針盤図小さな拠点づくりプロジェクトにおいてモデルの1つとして進めている旧伊手小学校を活用した小さな拠点づくりに係る取組状況について説明いたします。

2 これまでの主な経過

- 令和4年6月 伊手振興会の地区コミュニティ計画特別プロジェクト実現に向けて農村RMO事業を導入し、小学校跡地利活用検討チーム会議を立上げ
- 9月 伊手地区センターが土砂災害が発生する恐れがある箇所該当することが判明
- 令和5年3月 伊手小学校閉校
- 9月 小学校利活用基本構想が地区から市に提出
- 令和6年3月 伊手地区を小さな拠点づくりモデル地区に指定
- 5月 伊手農村農業活性化協議会・伊手振興会を相手方に小さな拠点づくりモデル事業実施協定締結
- 6月～ 地区センター（市）と伊手地区活用施設の複合整備の実施設計業務開始

3 施設利活用について

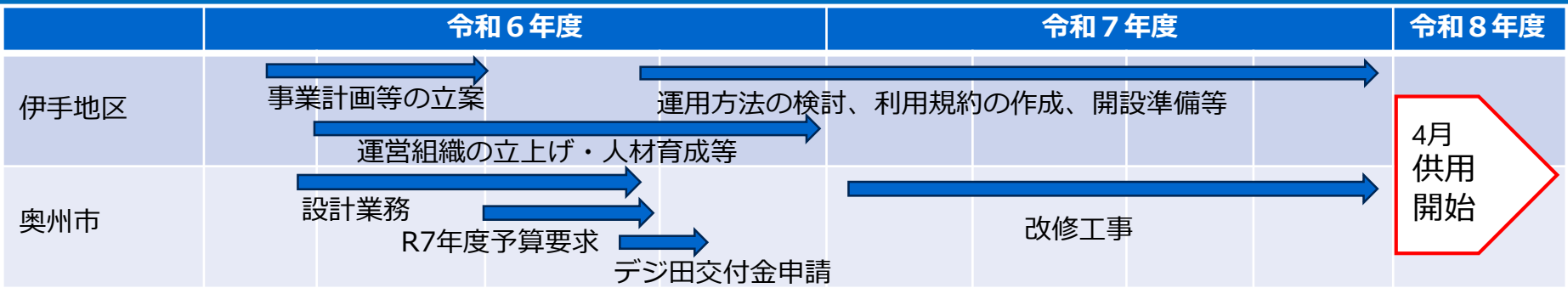
校舎1階と体育館を地区センター機能に改修、2階を地域活動の拠点施設に改修し、地元団体に貸与する。地区活用部分の設計に当たっては、地域の意見を聞きながら進めていく。

- 【地区からの利活用検討案（基本構想より）】
- ・農業体験・食育など青少年体験プログラムの構築
 - ・農産物の開発等による生業の創出
 - ・ブックカフェ、ものづくり工房等による地域交流の促進
 - ・キャンプ・野外イベントなど自然を活用した交流人口の増など

4 その他

- ・施設改修工事には、デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）を申請予定（補助率2分の1、過疎債充当）
- ・伊手地区では、旧小学校利活用の地域運営組織を立上げ予定。地域運営組織設立によって、モデル事業実施協定の相手方の地位等を承継することとしている。

今後の主なスケジュール



小さな拠点づくりプロジェクト

狙い 【小さな拠点】地域住民の合意形成（地域デザイン等）のもと、住民が主体となって事業者、市と連携・役割分担した、日常生活に必要な機能・サービスの集約による地域資源を活かした持続可能な生活圏の維持

地域住民による活動のステップ

①地域住民による「地域デザイン」の策定

②地域住民主体の地域運営組織の形成

③生活サービスの維持確保

④仕事・収入の確保

モデル1 衣川地域生活圏

地域と市の協働で生活サービス等事業をモデル的に実施

- 地域でアンケート調査やワークショップを実施
- 「衣川地域の将来ビジョン」をR2年度に策定



- R4年度に衣川地域振興会連絡会を運営組織として「小さな拠点づくりモデル事業」のモデル地区指定

地域と市の協働でモデル事業を実施

高齢者デジタルサタによるスマホ活用の推進



地域おこし協力隊による地域資源活用



住民との話し合いにより、プロジェクトの「狙い」に即したモデル事業を実施



民生委員活動にタブレットを活用



見守り電球を使った高齢者の見守り



モバイルクリニックによる遠隔診療



モデル2 伊手地域生活圏

住民主体による地域資源を活用した地域づくり

- 振興会が地域資源活用特別プロジェクトを立ち上げ
- 検討チームによる住民アンケートや勉強会を実施



- 地域住民によるワークショップを経て「基本構想」を策定
- 旧伊手小を複合施設に利活用
1階に伊手地区センターを移転
2階を地域運営組織が活用

旧伊手小学校を活用した複合施設を拠点に地域資源を活かした生業の創出、地域交流を促進

農福連携の推進・農作物の加工



体験プログラムの構築
グリーンツーリズムへの対応

キャンプや野外イベントの開催



安らぎの場
ブックカフェの開設



企業・団体との連携、地域資源

宿泊施設	(株)リハホテルズ&リゾート
スキー場	(株)北日本リゾート
温泉	黒滝温泉
キャンプ場	ふるさと自然塾

効果があった事業は全市展開

観測指標

小さな拠点数（事業に取り組んだ地域等の数）

R5

1 箇所



R8

箇所

企業・団体との連携、地域資源

農業生産	果樹園、産直施設
地域資源	金命水、キャンプ
自然景勝地	阿原山高原
郷土芸能	鹿踊り、獅子躍り